

千葉大学工学部 教育課程編成・実施の方針

「自由・自立の精神」を堅持するために

- 工学技術者として自己の目標を設定し、常に自己を評価検証するための教育の機会を提供する。
- 工学に関する技術の開発において、自己の良心に則り、かつ社会の規範やルールを尊重して高い倫理観をもって行動する姿勢を涵養する。
- 継続的な自己学修の必要性を理解し、新しい知識、能力の獲得に意欲をもつための教育の機会を提供する。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」を持つために

- 工学の社会的、文化的位置づけに関する教育科目を提供する。
- 工学に関する技術の開発において、地球規模的な視点や地域の視点から持続的な社会の発展を目指して、課題を解決する能力を涵養するために、多様な留学の機会を提供する。
- 学内外で継続的な学修を促進するために、情報通信技術を活用した学修基盤を提供する。

「普遍的な教養」を涵養するために

- 教養科目、外国語科目等を通じて国内外の多様な文化・価値観を深く理解し文理横断的・異分野融合的な知を備え、それらを工学に関する技術の開発・発展に対して自ら活かす姿勢を涵養する。
- 普遍教育との横断的なつながりを持った専門科目の学修機会を提供する。
- 地球的視点から、社会、自然、環境について理解し、人類や社会が直面する課題と工学との関わりについて認識するための教育の機会を提供する。

「専門的な知識・技術・技能」を修得するために

- 工学上の問題解決のための知識を段階的・体系的に修得できる教育課程を編成し、提供する。
- 自然や社会的事象、科学的事象、思考結果などを図や数式などで表現し、論理的思考の実践や思考結果を他者とやり取りする際の手段として役立てるための教育科目を提供する。
- 工学に関して、情報や知識をもとに実証的な姿勢で、多面的な視点から論理的に分析し、その結果を表現するための教育科目を提供する。
- 工学に関して解決すべき問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析し、解決するための学修の機会を提供する。

「高い問題解決能力」を育成するために

- 工学で必要となる内容を含め、自分の考えを伝え、相手の考えを理解するためのコミュニケーション、プレゼンテーション教育科目を提供する。また、英語による基本的なコミュニケーションを行うための専門教育科目を提供する。

- 情報通信技術を活用して多様な情報を収集、分析し、その結果を知的財産権や倫理に配慮しつつ工業技術の開発・発展に利用するための方法を修得するとともに、情報を適切に発信するための学修の機会を提供する。
- 工学に関して獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会的要求を踏まえて他者と協調・協働して工学に関する技術開発を行い、主体的・能動的な問題解決を可能とするための学修の機会を提供する。

「学修成果の厳格な評価」のために

- 学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。また、成績評価を透明かつ公平に行うためGPA制度を採用するとともに、事前・事後学修の明示や履修登録単位数の上限設定等により、単位の実質化をはかる。
- 講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
- 実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。